

<聖書シリーズ>

## ★ヨナのものがたり★

- ① 1 枚目 旧約聖書ヨナ書 P1281
- ② 2 枚目 <聖句> ヨナ書 4 章 10 節
- ③ 3 枚目 このお話のポイントは、「愛の神様」ということです。  
神様がこれまでの歴史を通して、どのように人々を導いてこられたのか。  
神様の愛が、ヨナの物語の中に現されています。  
ヨナはどんな人だったのでしょうか。
- ④ 4 枚目 ヨナは、紀元前 780 年ごろの預言者。  
預言者とは、イスラエルの民の中にあって、神の言葉を受け、神の言葉を語り続ける立場にある人。  
イスラエルの民を神の方向に向けさせる役目の立場にある人です。
- ⑤ 5 枚目 ヨッパは地中海沿岸にある港町です。ヨナはヨッパから船に乗り、地中海に乗り出しました。  
神様は、海に大風を起こされました。船に乗っていたヨナは、自分が神の命令に背いたからだ、と反省しました。  
そして、自分を取って海に投げ入れるように言いました。  
このようにヨナは、非常に正直な人でした。  
「この激しい暴風があなたがたに臨んだのは、わたしのせいです」  
ヨナの心を知られた愛の神様は、海に投げ出されたヨナのために大きな魚を準備されました。  
そして、ヨナは三日三夜、魚のお腹の中において、神様の命令に従わなかった自分を反省し、祈り続けました。  
ヨナの祈りの最後は「救は主にある」(ヨナ 2 章) 救いは神の中にある。神様へ、全てをゆだねて祈りました。
- ⑥ 6 枚目 神様は、ヨナの祈りを聞かれて、魚に命じてヨナを陸に吐き出させました。  
聖書の中にしっかりと書かれています。魚を準備したのも神様。魚がヨナ

を吐き出すように命じたのも神様。

そして、再びヨナに命じられます。「立って、あの大きな町ニネベに行き、あなたに命じる言葉をこれに伝えよ」

ヨナは、神様の言葉に従い、ニネベの町へ行き、人々に「40日経ったらニネベの町は滅びます！」と預言をしました。

⑦ 7 枚目 それを聞いたニネベの人々は、王様や大臣まで、自分のやってきたことを心から悔い改めて悪の道を離れるという奇跡が起こりました。

神様は、愛の神様であられますので、ニネベの人々の祈りを聞かれ許されました。聖書には（ヨナ書 3：10）彼らの上に下そうと言われた災いを思いかえして、これをおやめになった。とあります。

ニネベの町は救われたのです。

さあ、ところが、それに喜べなかったのがヨナでした。

なぜ、神はニネベの人々の上にあわれみをなされるのか、という不満の心が起きました。

⑧ 8 枚目 この様子をご覧になった神様は、一つのとうごまを通して神様の心情がどのようなものなのかをヨナに伝えます。

ヨナはニネベの町を出て、今後ニネベの町がどのようなになるのか成り行きを見ようと、小さな小屋を作り、ニネベの町を見ました。

暑い日でした。神様はヨナの暑さを和らげるために、トウゴマという植物を備えて、それを育て、ヨナの頭の上に日陰を作りました。

ヨナはとても喜びました。

しかし、神様は、夜のうちに虫を準備され、その葉を全て枯らしてしまいました。さらに熱い風をヨナに準備され、ヨナは暑さに苦しみました。

「死んだほうがマシだ！」またまた不満の心が起こりました。

⑨ 9 枚目 その時、神様の言葉がありました。

その後ヨナがどのようなになったのか、聖書には書かれていません。

ここでヨナさんのお話は終わりです。

⑩ 10 枚目：ヨナの話の中には神様の愛がいっぱい詰まっています。

神様の命令に背を向け反発し、逃げてしまったヨナ。

自分の思い通りにならないからと、不満を持ち、神に激しく抗議したヨナでした。

暑さにも耐えられず、死んだほうがマシだ！と投げ出したりもしました。

その度に、神様は、雨風、大きな魚、とうごま、とうごまを枯らす虫、熱風などを準備され、根気強くヨナに語りかけ、悟らせ、ヨナの心を成長させました。

神様は、親なる神様です。多くの人々を愛される神様であり、人々が滅ぶのを望まれるのではなく、救われることを望まれる神様です。

これまでの歴史を通して、神様は愛を持って人類を導いてこられました。